



いいたて希望の里

9年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます！



校長式辞（抜粋）

9年生5名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。東日本大震災のときに3歳から4歳だった卒業生の皆さんは、屋外活動制限、全村避難、避難先での通園・通学、プレハブ仮設校舎での授業、本村帰還に伴う学校再開などを経験し、義務教育学校として開校してからの3年間は新型コロナウイルス感染拡大の影響により教育活動が制限されるなど、これまで多くの困難を経験し、それらを乗り越えてまいりました。保護者の皆様を始め、多くの方々に支えていただきながら様々な困難を乗り越えてきたことで、人の痛みが分かる思いやりのあるお子さんに成長いたしました。

今年度は、義務教育学校の最上級生として、1年生から8年生の模範として活躍し、リーダー的存在として学校全体を活性化してくれました。卒業生の皆さん一人一人の頑張りにとっても感謝しています。これまで卒業生のお子さんたちを温かく見守り支えていただいた保護者の皆様、地域の皆様のご理解・ご協力に感謝申し上げます。本日をもって本校から羽ばたかれる卒業生の5名の皆さん、これからも本校の教育目標である「夢ふくらませ 道を拓く」の精神を忘れず、様々なことに「コツコツとことん」挑戦しながら、新しい場所でますます活躍されることを期待し、式辞といたします。



在校生送辞（抜粋）

9年生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。在校生一同心よりお祝い申し上げます。私たちが在校生の脳裏にも、先輩方と共に作った思い出が次々とよみがえってきます。後期課程から始まった部活動では、初めてのことに戸惑う私たちに先輩方が優しく言葉をかけてくださいました。部活動で活躍する先輩方の姿はとて眩しく、私たちにとって憧れの存在でした。先輩方のご指導があったからこそ、今の私たちがあります。合同授業や児童生徒会活動、学校行事等でも、先輩方が温かな言葉を掛け合いながら、互いに助け合う姿をたくさん見てきました。先輩方にとって最後となる今年度の「赤蜻祭」では、先頭に立って私たちを導いてくださったのが先輩方です。何かに困ったとき、諦めてしまいそうになったとき、先輩方の大きな背中が私たちに勇気と希望を与えてくださり、最高の赤蜻祭にすることができました。私たちが在校生は、大好きな先輩方ともしっかりとたくさんの思い出を作りたいです。しかし、悲しんでばかりはいられません。これからは私たちがいいたて希望の里学園を引っ張っていく立場になります。今まで先輩方に頼ってばかりいた私たちですが、これからは先輩方が創ってくださった輝かしい伝統を受け継ぎ、いいたて希望の里学園をより一層活気に満ちあふれた学校にするため、全力を尽くすことをお約束いたします。先輩方のご多幸と、ますますのご活躍を心からお祈りして、送辞といたします。これまで本当にありがとうございました。



卒業生答辞（抜粋）

長く厳しい冬の寒さも少しずつ和らぎ始め、まじりの里にも春の訪れが感じられるようになりました。私たち5名は、本日9年間の義務教育を終え、晴れて卒業証書を手にすることができました。校長先生を始め、教育長さんやご来賓の皆様から温かいお言葉を、在校生の皆さんからは励ましの言葉をいただき、胸がいっぱいです。3年前の春、義務教育学校いいたて希望の里学園として開校する大きな節目に、私たちは後期課程7学年として新たなスタートを切りました。先輩方の大きな背中に自分たちもついていけるか、飯舘中学校の立派な伝統を引き継いでいけるか

という不安もありましたが、それ以上に新しい生活への期待で胸がいっぱいだったことを覚えています。こうして始まった学校生活。多くの方々の支えがあったからこそ、私たちはたくさんの方にチャレンジし、成長することができました。私たちに温かいご指導とお力添えをくださった先生方、今日まで育ててくれた家族、一緒に活動してくれた後輩の皆さん、その他多くの方々のサポートに大変感謝しています。本当にありがとうございました。

今日からは一人一人が別の道を歩んでいくことになります。別れは寂しいですが、離れていても私たちは友達です。共に過ごしてきた日々を胸に、卒業してからも感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきます。そして、どんな困難にぶつかろうと、いいたて希望の里学園での得た思い出や学んだこと、誇りを胸に、希望に満ちた未来(夢)に向かって力強く邁進していくことをお約束いたします。最後になりましたが、ご臨席の皆様のご多幸と、我が母校いいたて希望の里学園のますますの発展をお祈りいたしまして、答辞といたします。

校内に在校生や先生方から卒業生の皆さんへのメッセージや写真が掲示されています。

